

2013年11月9日

日本の皆さんへ

国際的なワクチンと公衆衛生の関係機関は、日本のヒトパピローマウイルスワクチンに関する状況に懸念をもって注視してきました。一部の保護者がこのワクチンが「がん予防」のものであることを理解していないことから、米国を含む多くの国において、ワクチン接種に関しての論議があります。それにも関わらず、2つのHPVワクチンはすでに長期にわたってヒトパピローマウイルス感染、生殖器疣贅、早期の腫瘍性変化の発症阻止に効果をみせています。



加えて新規のワクチンはその登場のたびに安全性が問われてきましたが、実際には何の問題も起こっていません。したがって、（海外での実績を確信せずに）、日本において本ワクチンに危険性があると確定されていない段階で、HPVワクチン接種の積極的勧奨見合わせの決定をしたということは非常に残念なことだと思います。

私は、日本で「ワクチン接種後の女性」に報告された疼痛症候群の発生が、「ワクチン未接種の女性」より頻度が多いとは考えていません。「ワクチン接種後の女性」と「ワクチン未接種の女性」における比較も行わずに、疼痛症候群とワクチンの関連付けを行うことは不可能であると考えます。また、日本の医師による三角筋への筋肉注射の位置が高すぎたことが問題を引き起こした可能性もあり、（今後）教育が必要であるとも考えています。

私は、皆さまが日本のHPVワクチン接種再開を支援することで、海外と同様に子宮頸がんおよび（HPV関連の）他のがんの征圧に成功することを願っています。

私の心からの思いを込めて

どうもありがとう

医学博士 スタンレー・A・プロトキン